

福島県PTA連合会会報
第90号_H25. 03. 08

PTAふくしま

第90号

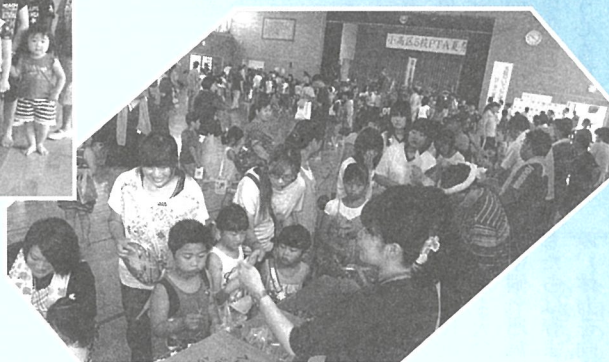
福島県PTA連合会
編集／調査広報委員会
印刷／泉印刷所

「子どもたちのリフレッシュ事業」から



～小高区5校PTA夏祭り～

(小高小・福浦小・金房小・鳩原小・小高中)



〔提供 南相馬市小高区5校PTA〕

じゃんけんワークショップ

福島県教育庁社会教育課主幹

早川 文之



子どもは、大人が思っている以上の能力をもっています。大人が子どもを信頼して任せれば、子どもは驚くほど様々なことができると思います。

もちろんそのためには、子どもが喜んでいいる時にはいっしょに喜び、子どもがくじけている時には心から励ますような親の働きかけや教師の存在が必要なのではないでしょうか。

ずいぶん前になりますが、社会教育専門講座に参加する機会があり、その中でフォーク歌手の高石ともや氏から「じゃんけんワークショップ」という興味深いお話がありましたので、紹介したいと思います。

家庭は、すべての教育の出発点です。しかしながら、子どもは家庭の中だけで育つわけではありません。学校や地域の様々な人たちと関わり、見守られながら成長していきます。「だれかが自分を待つ

じゃんけんワークショップ

一 負けた人とあいこの人は拍手をする。

○ 勝った人によかったねという気持ちで拍手。

○ 勝った人に物をやるのはよくない。↓ 貧しい心になる。

二 後出しじゃんけんで必ず勝つ。

○ 心を扱う人（相談員など）に失敗は許されない。

三 後出しじゃんけんで必ず負ける。

○ 子育てのコツは上手に負けること。

ていてくれる」と信じているから、人は生きていけるのだと思います。

PTAは、子どもの幸せを願って活動する会だと思っています。PTAが、学校・家庭・地域社会の架け橋となるよう期待しています。

県P連活動スローガン

子と親とが 共に育つ PTA活動を

各地区だより 特色あるPTA活動

地域で育てる平野の教育

福島市立平野小学校父母と教師の会会長

樺山 清志

本校は、福島市北東部の飯坂地区南部に位置し、桃やリンゴ、桜桃などに代表される果樹産業の盛んな地域にある児童数四百七十五名の小学校です。一つの学区内に小学校と中学校が、一校ずつある市内でも珍しい地域で、小・中学校との交流や、連携はもちろん、地域の中の学校として深く関わり、「地域の子どもは地域で守り、育てる」意識の強い所です。

両PTA共催で年一回行っている「平野の子どもを育む会」では、地域の方と保護者、先生が集まり、子どもたちの生活の様子や通学路の危険箇所、不審者情報など、活発な意見や情報の



交換が行われ、大変貴重な会となっております。また、子どもたちの安全を守る活動「こども110番の家」や、毎年百トンの回収に協力をいただく資源回収など、地域の方や諸団体の方々から様々な面で支えていただいております。

さて今回は、毎年十一月に行っている「ひらの子どもまつり」をご紹介します。この活動は、地区の異世代間交流事業として、地域のおじいちゃん、おばあちゃんと子どもたちが昔遊びやゲームなどを通して、交流を図る中で、健やかな心の成長を育み、また学校と保護者、地域の連携を強めることを目的に始まり、今年度で十六回目を迎えました。開催にあたっては、長寿会をはじめ、地区婦人団体、学習センターにご協力をいただき、本PTAの重要な活動の一つになっています。当日は、小学校体育館、校舎を開放していただき、子どもたちが個性に合わせて楽しみ、触れ合えるよう、ぬり絵や折り紙、あやとり、プラバン作りなど「静」の遊びと、輪投げや紙飛行機、竹トンボ、ストラックアウトなど「動」の遊びを盛り込み、工夫を凝らし行っています。また、車イスや白杖での介助体験コーナーも設け、お年寄りや障がい者への理解に取り組んでいます。困っている人を見かけたら声をかけ、手を貸す、助け合う心も育んでくれたら、嬉しいことはありません。子ども

は地域の「夢」や「希望」です。しばらくまよいよう、上手に膨らませて大空に飛ばし、大地に根付かせるのは、関わる大人の責任だと思います。未来を担う子どもたちを地域で守り、育てる活動を、これからも学校とPTA、地域が一つになって取り組んでいきたいと思っています。



針生の家庭教育のよさを大切に

南会津町立針生小学校PTA会長

阿久津 和隆

本校は、児童数二十一名、会員数十二名の小さな学校です。だいくらスキー場まで車で五分と近いこともあり、学校のスキー教室と校内スキー大会では、保護者が指導者です。特に校内スキー大会は、全会員が朝から大会の準備・運営に協力しています。子どもたちは春まで積極的にスキーを楽しみ、体力を向上させています。

針生学校は来年度から隣接校と統

合になりますので、現在は全会員の協力により、閉校記念事業に取り組んでいるところです。

本会では、これまで、「家庭・学校・地域が手を取り合って育てたいこと」として次のことを掲げて取り組んできました。

「針生の家庭教育三原則」

- 一 よい習慣をしつかり付ける
- 二 してよいこと、悪いことはきっちり教える
- 三 針生のよさをたつぷり伝える

「針生小の子育てセブン」

- 一 こんな子どもに育てよう
 - 二 自分から挨拶ができる子どもに
 - 三 働くことが好きな子どもに
 - 四 お手伝いができる子どもに
 - 五 家庭学習ができる子どもに
 - 六 読書が好きな子どもに
 - 七 運動が好きな子どもに
- 七 必要なことをきちんと話せる子どもに
- 今年度、アンケート調査したところ、



各家庭で特に力を入れている項目は、挨拶、きちんと話す、運動の順でした。また、針生の家庭教育には、祖父母の協力が欠かせないことも改めて確認されました。学校へのお迎え、宿題の声かけ、いろいろな場面での励まし、だめなものはだめと叱ってもらう、親が気が付かないことを指摘してもらう、畑仕事で自然にふれさせてくれる等、様々な場面で親の代わりをし、「いい教育力」を発揮してくれているのです。針生のよさを伝えてくれるのも祖父母です。学校の地域の伝統文化を学ぶ体験活動等に積極的に協力しています。祖父母の力を頼りにし、協働して子育てをしている家庭がとても多いのです。ある親は「大人四人で子どもを育てているようでとてもよい環境」と歓迎し感謝していました。

私たちはこれらの家庭教育の心構えと祖父母とのコミュニケーションを大切にしながら、今後も実践していきたいと考えております。

震災から早期に立て直し、 児童の笑顔を取り戻すための PTA活動

南相馬市立小高小学校

父母と教師の会長

本間 進

本校は、南相馬市の南部にあり、東日本大震災に伴う東京電力福島第一原子力発電所の事故により警戒区域に指定されました。

当時約四百名いた児童は家族と共に県内外に避難を余儀なくされ、四月に市内北部の鹿島小学校で学校を再開したときには全校児童が二十五名になりました。その後、学校は引越越しを四度繰り返し、平成二十四年四月に鹿島中学校仮設で始めたときには児童数九十五名まで戻ってきました。PTA会員も大幅に減ったために、本来あった六つの専門委員会を一括した「復興委員」を組織して、できることからやっていくことにしました。



このことで、縮小した形ではありますが、予算的な見通しも含め、早期にPTA活動が可能になりました。

まずはじめに、震災直後の混乱期で不安を抱えている児童に楽しさや喜びを感じさせるような活動をしました。教職員と協力し、親子ミニ運動会を計画・実施して、だるま運びやパン食い競争などの競技を親子で楽しみました。また、JAの協力を得て、餅つき会も実施しました。杵で餅をつく体験の後、あんこ餅やきな粉餅を親子で美味しくいただきました。さらに、PTA役員OBのボランティアも加わり、読み聞かせや人形劇を実施しました。児童たちは大喜びでした。

二つ目は、不自由な学校教育を支援しています。震災以前から協力していた運動会などはもちろん、学校が小高区の校舎内に残っていた児童の私物の引き取り作業を行った際も協力しました。震災後、二度の人事異動で先

生方も転出した保護者との面識がないこともあり、PTA役員が協力することでスムーズに引き渡されるだけでなく、保護者同士が再会を喜んだりと、近況について話し合ったりしている方々が多かったです。

その他、PTA広報「うきふね」の発行は、例年三回発行を二回にしましたが、避難で転出した保護者にも配付しました。

今いる児童やPTA会員だけでなく、原発事故がなければ本校で一緒にいたであろう人たちの絆も大切に、一日も早く正常な環境の中で児童が楽しく学校生活が送れるよう、これからもPTA活動を工夫していきたいと思っています。

小学校と中学校が 連携して進めるPTA活動

いわき市立藤岡中PTA会長

関口 聡

私たちの住んでいる地域は、いわきの沿岸に位置した農業地帯です。地域には、小学校が二校、高久小学校と夏井小学校があり、その二校から、ほとんどの児童が藤岡中学校へ進学してきます。

最近では、共働きの家庭が多く、PTAの活動にあまり積極的に参加できない状況がありますが、我々の地域特有の取り組みがあり親同士の親睦や、親と子どもと一緒に参加できる催しを三校が協力して行う三校PTAという組織があります。組織といっても、各学校のPTAの役員及び先生が毎年交代で当番校として何を行うか

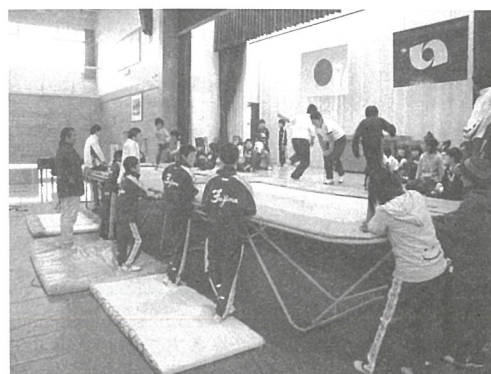
を決め、三校で集まって協議を重ね実施していくというものです。

震災の前までは親が中心で球技大会を行っていたのですが、競技場が瓦礫置き場となっていたため、実施ができず、昨年は当番校である高久小学校が、親と子どもと一緒にできることはないかと知恵を絞って、親子体操教室を提案してくれました。

地域の中に、小学生から高校生までがかよう、個人で運営されている「ラビット体操教室」があります。ここにお願いし、親子でできる体操を教えていただくことになりました。当日は、トランポリンを二台お借りして、実際の演技やマット上での体操の実演を見せていただきました。

間近ですがいい演技を見ることがあまりないので参加者が歓声を上げ大変喜んでいました。

今まではどうしても親同士の親睦を深めることに重きを置いていたの



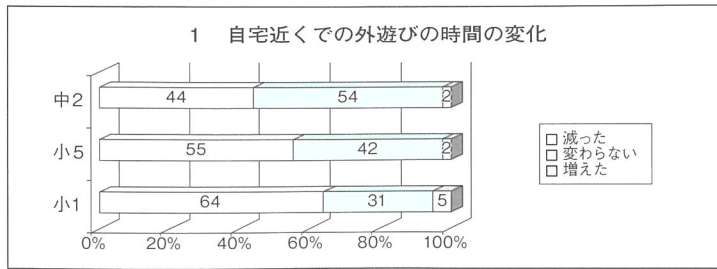
ですが、今回、中学生と小学生そして親と一緒に、マット上での体操、またトランポリンを使っている体操を行いました。その中で中学生が小さな子どもを補助している姿を見て、このような機会をもっと多く増やした方がよいのではないかと感じました。

中学生になると、家と学校の往復、そして塾通い、地域に自分たちよりも小さい子どもたちがいてそれを守らなくてはならないといった気持ちが薄らいでいくのではないのでしょうか。このような機会を通し、大人たちが子どもに教えていかなければならないのではないかと思います。

このようなことを考えさせてくれる三校PTAの存在は大変重要なものだと思います。先輩たちが、地域のためにと作ってくれた仕組みだと思います。

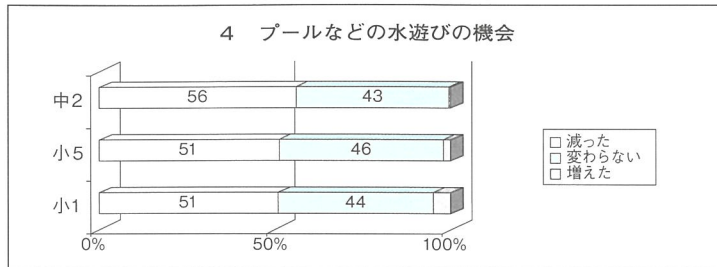
今後も子どものため、地域のため、との思いで、大事に運営をしていきたいと考えております。

1 自宅の庭や近くの公園など、外で遊んだり運動したりする時間はどのように変わりましたか。



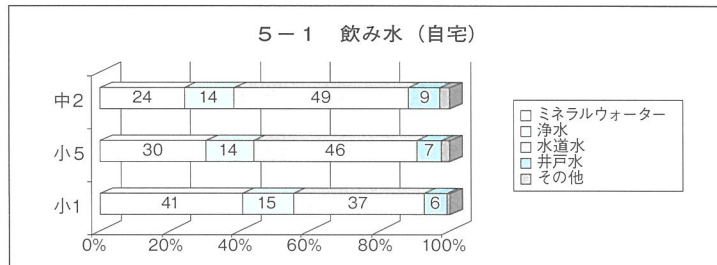
〈考察〉低学年になるほど、外遊びに対する子どもへの不安が増えていることが認められる。小1では、2/3の家庭で減っていると認識している。

4 プールなどの水遊びは増えましたか。



〈考察〉どの学年も全体の半分程度が、減っていると回答している。実数の集計結果では、特に、県北、県中、相馬地区でこの傾向が強く出ていた。ただ、全体として外遊びほどの学年差が見られないのは、区域内の除線による放射線量の低下や、プールの安全性への理解が進んだことも理由であると思われる。

5 飲み水にはどのようなものを使用していますか。(自宅)



〈考察〉低学年ほど、ミネラルウォーターの割合が増える。逆に水道水を直接飲む比率は減少する傾向にある。特に、福島、郡山、いわき、相馬の各地区においては、その割合が他地区より高い傾向が見られた。

東日本大震災以降の状況把握のための 保護者アンケート結果(速報)

健全育成委員会

昨年十二月、各都市P連の皆様にご協力をいただき、健全育成委員会で東日本大震災以降の子どもの状況把握を中心として、保護者を対象にしたアンケートを実施しました。その集計結果がまとまりましたので、一部を速報の形でお知らせいたします。この結果から、保護者の意識の傾向を知り、地域や学年による意識の違い等を見比べるなどして、子育てや我が子への関わり方などを考える資料として役立てていただければと思います。(なお、詳細につきましては次号でお知らせいたします。)

第36回子ども災害事故防止習字・ポスター展

三十六回を数えた今回も、温かいご支援とご協力をいただき開催できましたこと、厚く御礼申し上げます。関係の先生方のご理解・ご協力に感謝いたします。

習字の部入賞者

小学校の部

- ◆最優秀賞(一年) 目黒 倫(白河二) (二年) 本田和愛(金上) (三年) 小田切咲彩(喜多方二) (四年) 澤入美優(白河一) (五年) 菅原未夢(みさか) (六年) 佐川雅晃(棚倉)
- ◆優秀賞(一年) 斧田明花音(須賀川二) ノ瀬 梓 荒館 高久沙来(白河・熊倉二) 緑川綾音(滑津) 菅野薫里(福大附属) 菅野真央(白河・熊倉三) 本多菜凜(瀬上) 高嶋 秀(川南) 伊藤史玖(白河・熊倉) 歌川さくら(鶴城 渡辺 快(平二) (四年) 齋藤なお(阿武隈) 齋藤和奏(五箇) 鈴木花南(白河二) 阿部華怜(本郷二) 小野妙音(城南) (五年) 杉原はたる(城南) 小田切大也(喜多方二) 橋本佳奈(緑ヶ丘一) 加藤 侑(福大附属) 中川西優希(滑津) (六年) 末永 淳(長倉) 小島梨奈(白河二) 生田目彩花(上遠野) 来栖有優(緑ヶ丘二) 遠藤祐香(小名浜二)
- ◆優良賞(一年) 高橋昂央(塩川) 皆川真太郎(小名浜一) 本田諒成

審査の先生方(敬称略)
○習字
佐藤 一男(元清明小教諭)
丹治 英郎(元福田小校長)
鈴木 幸子(元蓬萊小教諭)
○ポスター
穴澤 耕二(蓬萊小校長)

大川
喜多方一小田切咲彩

▲小3年 喜多方一小田切 咲彩 さん

道具
佐川雅晃

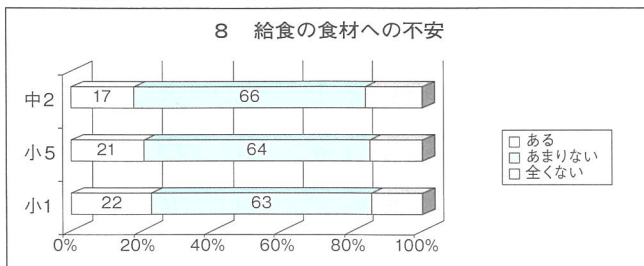
▲小6年 棚倉小佐川 雅晃 さん

防災
増田千晴

▲中1年 喜多方二中増田 千晴 さん

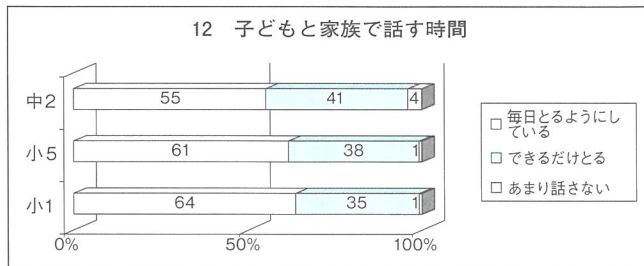
(金上) 神田来愛(鶴城二) 武藤 桃(荒館) 緑川知紗(棚倉) 岡大智(五箇) 相澤光佑(平二) (三年) 栗城洸太(塩川) 藤井 花(須

8 学校給食の食材への不安を感じることはありますか。



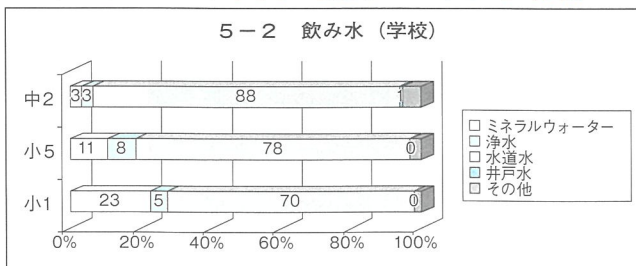
〈考察〉学年での大きな差はなかった。全体として不安を感じない、あまり感じないが8割ほどであった。線量検査の情報公開が機能していると見られる。一方「絶対安全か」「積算したら？」といった意見も少数だが不安要素として見られた。

12 お子さんと家族で話す時間を取るようになっていますか。



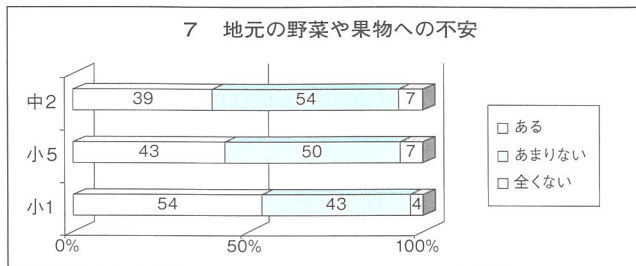
〈考察〉どの学年でも、殆どの家庭が子どもと話す機会をもつよう心がけている。ただ、H22年度調査と比べると、小5、中2は20ポイントほど下がっている。原発事故の影響により保護者の心の余裕が減少したためかも知れない。

6 飲み水にはどのようなものを使用していますか。(学校)



〈考察〉学校においても、家庭からミネラルウォーターや浄水を持参させる割合は、低学年ほど高い傾向が見られる。ただ、自宅の場合と比較すると、持参の割合はどの学年も半分以下で、大半は水道水を飲んでいることが分かる。

7 地元の野菜や果物に不安を感じることはありますか。



〈考察〉食への不安も学年が下がるほど多い傾向が見られる。理由として、産地への不安、検査方法への不安、情報の信頼性への不安、放射能そのものへの不安が多かった。

今回の保護者のアンケートで
あきらかになったこと

○外遊びに対する不安は学年が下がるほど強い傾向が見られる。

○休日の低線量地域への外出も同様に、学年が下がるほど増える傾向が見られる。

○プールなどの水遊びについては、外遊びほど強い不安傾向は見られなかった。

○飲み水に関しては、家庭でも学校でも、低学年ほど水道水の利用が減少する傾向が見られたが、その割合は、学校でよりも家庭の方が強く出ることが分かる。

○野菜や果物の産地への意識は、特に小一で強いことが分かる。小五、中二では大差がなかった。

○家庭と学校給食での食材への不安に関しては、特に家庭では学年による差異が見られたが、学校給食では差異が見られなかった。また学校給食への不安の割合も減っている。

○子どもと家族で話す割合は、学年間での差異はあまり強く出なかったが、低学年ほど対話が増える傾向は見られる。

○放射線対策として一番気を付けていることは手洗い、うがい、全体の7/8割程度となっている。マスクの着用は非常に少なくなってきた。

ポスターの部入賞者

▼小学校の部

◆最優秀賞(一年) 菊池柊花(上遠野)
◆二年 山田未来(喜多方)
◆三年 穴澤磨依(城南)
◆四年 室井聖真(神指)
◆五年 佐藤未宇(玉野)
◆六年 山田莉子(石川)

◆優秀賞(一年) 秋元翔太(中央台南)
◆二年 高玉晃和(平一)
◆三年 井島弘望(鶴城)
◆四年 太田宙



▲小5年 玉野小 佐藤 未宇さん

多方(二) 芥川理礼(金上) 西山瑠那(福大附属) 高嶋優希(川南)

▼中学校の部

◆最優秀賞(一年) 増田千晴(喜多方)
◆二年 齋藤みゆね(二本松)
◆三年 鈴木 駿(玉川・泉)
◆優秀賞(一年) 有賀大希(白河)
◆二年 石塚勇都(三穂田)
◆三年 吉田初美(磐城)
◆優良賞(一年) 西牧真尋(小野)
◆二年 車田成永(玉川・泉)
◆前田敬純(喜多方)



▶中2年 浅川中 栗原 美南さん

◆関辺(五年) 鈴木太一(五箇)
◆六年 出雲恩京(石川)

◆優良賞(一年) 大瀧真央(須賀川)
◆二年 齋藤春都(喜多方)
◆三年 鈴木千尋(釜子)
◆四年 大浦菜々美(平一)
◆五年 菅野佑志(杉田)
◆六年 鈴木悠聖(五箇)

▼中学校の部

◆最優秀賞(二年) 栗原美南(浅川)
◆優秀賞(二年) 白川七美(浅川)
◆優良賞(二年) 矢内優穂(浅川)

安全互助会から

すでに平成二十五年度安全互助会への加入案内をしたところですので。

確認いただきたい点をお伝えいたします。

平成二十五年度は、昨年度同様これまでの日程で進めます。

◎今後の日程等

○加入申し込み締切

……三月十一日(月)

※まだのところがありましたらお急ぎください。

○「会員証」「事務取扱概要」の送付……四月中

※このとき、事故報告用紙も送付します。

○会費納入……五月末日

平成25年度研究大会等の予定

月	主 な 行 事
6	県P小・中懇談会 25日(火)
8	日P研究大会みえ大会 23日(金) 24日(土)
9	東北P研究大会福島大会(兼県大会) 7日(土) 8日(日) 県P母親代表懇談会 20日(金)

○会費引落し……六月三日(月)

※ただし、口座引落しの手続きをしている学校・園のみ

※新たな会費の口座引落しを希望される場合は、本会宛にご連絡ください。

◎事故報告について

① 傷害事故、賠償事故の報告については、ケガをした日・事故が発生した日が基準となります。

二十五年三月三十一日までに発生した事故については、二十四年度の会員証番号・加入コース・学年で報告してください。

② 二十五年四月一日以降のケガについては、二十五年年度の会員証番号となります。

③ 「事故報告書」に、住所や氏名を記載しますが、「フリガナ」

の付け忘れが多く見られます。そのたびに、学校・幼稚園に問い合わせさせていただくことになりそうです。本会宛に郵送される際、付け忘れないかどうかご確認くださいと思います。

◎保険金請求について

学校・園からの事故報告に基づき、保険会社から請求者である保護者宛に請求関係の書類一式が送付されます。

昨年十月より、十八歳未満の子どもの医療費が無料となる措置がとられていますが、本制度は、あくまで保険制度であり、医療費とは別に支払われるものなので、面倒がらずに請求手続きをしてください。

なお、担当の先生方からも、保護者の方に伝えてください。

編集後記

三・一一から丸二年が経過します。いまだに原発事故の収束の見通しが不透明な中、過酷な環境での生活を強いられている方々が多くおられます。

県PTAとしても、子どもたちの安全・安心の確保を最優先に、さらに確かな学力の保障を関係機関等に強く働きかけています。

福島の復興を担う子どもたちの未来が明るいものとなるよう願うと共に、一日も早く、子どもたちの笑い声が聞ける生活に戻りたいと願うばかりです。

(T・H)

共栄火災

夢を、未来を、
ずっと近くで支えたい。

つながり強化宣言! 共栄火災

サイ吉

人々が気持ちよく毎日を暮らせるよう、
安心の子カラでそっと支えるサイ。
共栄火災のサイ吉です。

